



# KIFA Plaza

鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第59号

2008年（平成20年）3月6日  
発行：鎌ヶ谷市国際交流協会  
〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1  
TEL 047-445-1141（内550）  
FAX 047-441-9400  
http://www.kifa.gr.jp

## 設立20周年記念講演会

「日常が突然、戦場状態になる……」——アフガニスタン、イラクなど戦争・紛争地帯で取材活動を続けるジャーナリスト・遠藤盛章氏は話す——鎌ヶ谷市国際交流協会（KIFA）設立20周年記念事業の最終章として、同氏の講演会が1月27日（日）、東部学習センターで開かれた。

戦場・紛争地帯で何が起きている



撮ってきた映像を説明しながら話す遠藤氏。机の上には愛用のビデオカメラ。（左は司会進行を務めた林幸治・広報委員長）

## テレビ・戦争報道の現場

国際ビデオジャーナリスト  
遠藤 盛章氏

### ●「戦争が見えなくなった」

20世紀までの戦争は国と国との戦いで、従軍記者が戦況を知らせることはできた。軍による監視と規制を受け、条件付きとはいえ取材は許され報道されてきた。

ところが、2001年9月11日に発生したアメリカ、ニューヨークの貿易センタービル同時多発テロ事件以降「戦争が見えなくなって（隠されてしまった）、あるいは突然、街がテロの戦場になる」——取材・撮影が不可能な状況に変わってきた。戦場から取材者は締め出され、拒否されるようになった。近づこうとすると銃口を向けられる。当局が一方的に発表することが報道される。これはジャーナリズムとはいえないと、遠藤氏は自身で映した戦場の現場を、映像で紹介しながら話す。

「私（遠藤）はフリーランスのジャーナリストとして、主として紛争地帯・戦場に入り、街角からビデオカメラで、何が起きているのか取材し、テレビ報道などに提供してきた。とにかく見たことをビデオに撮る。そして世界に知らせる。その使命を果たすには、戦場の近くに、紛争地帯にいないではならない」と。



### ●私はイラクに残った。そして拘束された（02～04年）

2003年3月、米軍によるイラク侵攻の軍事行動開始により、日本外務省の退去勧告で、邦人はじめマスコミ取材者がバグダッドを離れた。フリーでいた私は少数の外国人記者とともに残り、取材を続けていたが、カメラを持っていたため、イラクの秘密警察にスパイ容疑で拘束されてしまった。アブグレイブ刑務所に拘束され死刑囚扱いであった。自動小銃を持った兵士が監視している。米軍の爆撃が近づくとコーランの音が大きくなる。遠ざかると小さくなる。これで爆撃機の状況が分かった。

アブグレイブ刑務所に9日間拘留された。フセイン政権が倒れたのが4月9日、釈放されたのは11日であった。バグダッドではイラク兵の死体をみた。多くの悲惨な場面をみてきたが、日本のメディアは流さない。自主規制があり、残酷な場面は報道していない。これでは戦場の実態は伝わらないと思う。

釈放された後、再度バグダッド入りして、勾留中に知った友人たちを訪ね、フセイン政権崩壊後のイラクを撮ることができた。破壊され、略奪されるバグダッド、自分がどんな状況の中にいたのか知ることができた。

### ●大津波の村で独立運動の青年が撃たれた（04年12月）

2004年12月26日にインドネシア・スマトラ沖で起きた、大地震による巨大津波の最大被災地となったアチェ。ここはアチェ州独立運動の拠点でもあった。その被災地で独立運動に身を投じていた青年が、故郷に帰ったところを政府軍によって射殺された。ゲリラ掃討を理由にいきなりの銃撃戦（授業中の小学校の脇、子供たちが恐怖で泣き叫ぶ）、家族たちが青年の遺体を引き取る悲しみの光景が、生々しく映されている。

### ●テポドン発射時の北朝鮮（98年8月）

1998年9月、金正日が国家元首に就任する。この年8月31日、テポドン1号が発射された。隠し撮りで撮った平壤の夜、電力不足で夜間停電。高級クラブのみ開いている。特別な職務の人たちだけに許される豊かさ、木の実を拾って食べる村民たちの姿が映されている。この年、北朝鮮は子どもたちの餓死者がいる事実を認めた。ビデオを上映しながら、静かに語る遠藤氏の口調に、かえって問題の深刻さが伝わってきた。



にぎやかな雰囲気のパティ会場

## KIFAパーティ2007

鎌ヶ谷市国際交流協会（KIFA）設立20周年を祝う——1988年4月の設立以来、外国文化の紹介、在住外国人との交流による異文化体験など、また姉妹都市・ワカタネへの派遣事業を通じ、20年にわたって鎌ヶ谷市における国際交流事業に寄与してきた「KIFAパーティ2007」が昨年11月18日開かれた。

### ◎清水市長はじめ市民240人が集う

会場となった総合福祉保健センター6階大会議場には、清水聖士市長、勝又勝市議会議長はじめ、渋谷定重副市長、川西八郎教育長、田澤進二郎KIFA顧問、岡本靖子姉妹都市交流委員会副委員長、また近隣の我孫子市、柏市、白井市、船橋市の各国際交流委員会の会長・副会長の皆さんが来賓として出席、市民ら来場者240人余とともに設立20周年を祝った。

冒頭、酒井哲郎会長から「20年前にKIFAが産声をあげてから今日まで、さまざまな活動を続けてこられたのは、多くの方々のご理解とボランティアの皆さんのご努力によるもの」と関係各位、会員へのお礼のあいさつ。

続いて岡本姉妹都市交流委副委員長から「ニュージーランドのワカタネと鎌ヶ谷市が姉妹都市の関係を結んでから10年、この間、市民同士の交流が深まり、ますます盛んになって大変喜ばしい」とのあいさつがあった。

次いで清水市長から「KIFA設立20周年おめでとう。20年前といえば、東西の冷戦時代が終わり告げ、草の根の国際交流が世界的に始まった頃でした」と市長自身の当時の体験を話した後、「鎌ヶ谷市は将来、成田空港との鉄道、道路のアクセスが便利になり、多くの外国人が居住するようになるでしょう。そうするとKIFAの存在意義が高まってくる」と激励の祝辞



酒井哲郎会長



清水聖士市長



勝又勝市議会議長



岡本靖子副委員長

人も列が出来ている。姉妹都市・ワカタネ提携10周年を迎え、清水市長、酒井会長らが出席した「記念式典」の模様を中心に、交流の足跡を紹介する「鎌ヶ谷市姉妹都市交流委員会」ブースをはじめ、ワカタネ青少年ロングステイ、ハンブル講座、日本語教室、子ども英会話教室、鎌ヶ谷高校料理研究会の各コーナーには、大勢の参加者が集まっている。

### ◎舞台アトラクションが会場を魅了

舞台ではアトラクションが始まった。ハンブルブース周辺から突然、太鼓と鉦の音が弾けた。韓国の民族衣装を着けた若者たち数人が演奏と共に、会場を練り歩き舞台にあがった。千葉大



近隣市の国際交流協会の来賓の皆さん

## 設立20周年記

があった。

近隣市の交流協会招待者の紹介のあと、勝又市議会議長の乾杯のあいさつがあり、ボランティアスタッフ桶本栄さんの司会でパーティの祝宴がスタートした。

### ◎「味・匠の会」のスープが人気

八つのテーブルには、飲み物と食べ物が用意され、それぞれ世話役の皆さんのリードにより自己紹介など談笑の輪が広がった。

会場ブースでは、ことし初参加の「味・匠の会」の皆さんの白いキャップとシェフ姿がひときわ目をひく。温かい二種類のスープを振舞うテーブルには幾

### ワカタネ姉妹

#### ●酒井会長ら市民6人と

鎌ヶ谷市がニュージーランド都市提携から10周年を迎え、11月5日にワカタネで行われた成人派遣、青少年ロングステイを推進し、姉妹都市友好の記念式典には、清水市長、清水市国際交流委員会委員長ら勝又市長にも、酒井会長以下、参加の方々が出席、両市の友好の一行は11月5日夕方からでの式典に臨んだ。式場オリの儀式があり、入場



の留学生たちだ。楽器は今度はかわいいちびっ子会話教室のキッズによる。続いて「日本語の日本語によるコーラス」を渡った。

しばらく置いて舞台に着けたフラメンコダンスを着けたフラメンコスタジオ・ヒメによる、スペイン舞踊が観客の視線は舞台に釘付け

#### ◎外国人参加者は1

6階会場ロビーには「お茶席」が設けられ、静かで優雅な時空間が



スープが人気の「味・匠の会」



日本語教室の皆さん



鎌ヶ谷高校料理研究会

## 記念特集

### 鎌ヶ谷市10周年

ともに参列

ランド・ワカタネと姉妹  
え、記念式典が昨年の11  
れた。K I F Aはこれま  
グスティなど海外交流事  
好を後援してきた。今回  
市長、一色雅男姉妹都市交  
議会議長、公式訪問団と  
加を希望された6人の市民  
層の友好推進を誓いあった。  
から、ワカタネ戦争記念館  
に入る前に30分に及ぶマ  
場が許されて式場に入り、  
両市長のあい  
さつと記念品  
交換、パー  
ティが行われ  
た。翌日は友  
好のシンボル  
となっている  
「かまがや・  
ワカタネジャ

の紹介と演奏が続いた。  
子たちが登場。子ども英  
「手遊び歌」が始まっ  
語教室」の外国人生徒ら  
「ともだち賛歌」が響  
には、派手な色彩の衣装  
ンサー数人が登場。「フ  
タニージャ」の皆さんに  
派手に繰り広げられ、会  
けだ。

### 6カ国49人

鎌ヶ谷市茶道協会によ  
れ、和服姿のみなさんの  
演出されている。

パニーズガーデン」を訪問し、全員で記念撮影を  
した=写真。

## 「KIFA Plaza」記念号発行

記念事業の一環として、32ページ特別編集の「K  
I F A Plaza 設立20周年記念号」(第58号)を  
発行した。

表紙は発行済みのK I F A Plazaの集合写真を  
背景に、「20」「設立20周年記念号」の特大文字が、  
市のシンボルカラーのグリーンで鮮やかに配置され  
た2色刷り。内容構成は、設立10周年記念パー  
ティの行われた1997年11月16日から20周年記念  
パーティの2007年11月18日までの「10年間のあゆ  
み」を記録。さらに執行部、交流部会、研修部会、  
日本語教室、派遣事業の10年  
間の活動状況を紹介。さらに  
執行部、交流部会、研修部会  
の担当者による現状の紹介と  
未来への抱負が寄せられている。  
最後の2ページは広報委  
員会の活動などを掲載。この  
10年間のK I F Aの活動を記  
録した記念誌となっている。



パーティはフィナーレに近づいた。

舞台にはぬいぐるみなど山のような景品がな  
らべられた。会員からの善意の寄贈賞品だ。さ  
あー、ゲームスタート。会場全員による「Q&  
A」で質問に答えて、正解者が勝ち残り賞品を  
ゲットする。大人も子ども賞品が行きわたり、  
閉会の辞がありパーティは無事終了した。

この日のパーティ全参加者は240人。外国人  
参加者は16カ国49人。(バングラデシュ、中国、  
ブラジル、韓国、スリランカ、インド、オラン  
ダ、オーストラリア、カナダ、セネガル、ドイ  
ツ、ニュージーランド、ハンガリー、フィリ  
ピン、ベトナム、ミャンマー)

会場を後にする参加者には、記念品のボール  
ペンとK I F A Plaza「設立20周年記念号」が  
贈呈された。

## 2007年度語学講座閉講式

### 5講座の修了者たち 晴れやかに集う

2007年度語学講座合同閉講式が2月10日(日)、  
市総合福祉保健センター6階大会議室で開かれ  
た。この1年間、好きな語学を学んだ生徒さん  
らは、みな晴れやかに輝いていた。

今年の各講座の修了者は120人。この日の閉  
講式に出席した生徒は英語Aが19人(講師、D・  
ヘネベリー、受講生26人)、英語Bが11人(講師、  
J・チェネリー、同23人)、中国語は11人(講師、  
范曉耘、同17人)、ハングルが21人(講師、李  
賢貞、同27人)、子ども英会話教室24人(増田  
千佳先生、同27人)、それと日本語教室の9人  
とボランティアの皆さん。

それぞれのサークルごとに着席、先生を囲ん  
で級友たちと楽しそう。今回、初めて合同閉講  
式に参加したキッズ「子ども英会話教室」の子  
らは、増田先生を囲んで嬉しそう。

年間休まず精進を重ねた皆勤賞の皆さん12人、  
キッズ英会話の10人に酒井哲郎会長から記念品  
が贈られた=写真。



各講座の先生から「皆さん良く頑張りました。  
とても熱心な生徒さんでした」と称賛のあいさ  
つ、生徒らから感謝の花束の贈呈。日本語教室  
のボランティアの皆さんの紹介があり、鎌ヶ谷  
に来てはじめて日本語を学んだ外国人の皆さん  
から、お礼の花束贈呈がにぎやかに行われた。  
このあと、クラスごとに趣向をこらし、学んだ  
語学を使い、精進の成果を発表しあった。式の  
終了後も先生を囲んで、お別れのあいさつがい  
つまでも続いていた。

### ★2008年度合同開講式のご案内

5月から開講する新年度の語学講座は、英語  
A・B、中国語、ハングル、子ども英会話教室  
の5講座と外国人対象の日本語教室です。詳細  
は後日、市の広報紙など通じお知らせします。  
なお、合同開講式は5月18日を予定しています。

## 「日本語教室」ボランティア活動

### ★特別学習「日本のお茶を楽しむ」

外国人の皆さんが毎週火曜日の夜、あるいは隔週日曜日の午前に通う「KIFA日本語教室」の特別授業が昨年12月18日の夜、中央公民館学習室で開かれた。「日本のお茶を楽しもう、ビンゴで身近な日本語を楽しもう」



と、日本の伝統文化体験とゲーム感覚で日本語を身に付ける仕掛け。「お茶」のお点前指南は和服姿の日本語ボランティアの皆さん。生徒たちは慣れない手つきで「頂戴いたします」「お菓子は先に食べていいの」「二つ食べていいの」「泡が立たない」など質問が飛び交い、にぎやかな日本文化体験の「お茶席」を過ごした。

次いでビンゴゲーム開始。ボランティアスタッフが工夫した「特殊ビンゴ」(たて、よこ4つのマス目に、ひらがなで動物や食物の名前)を配り、手書きの絵を示し、当たりの言葉を競っていく。それぞれ賞品をゲットし楽しい多国籍交流の夜となった。

次いでビンゴゲーム開始。ボランティアスタッフが工夫した「特殊ビンゴ」(たて、よこ4つのマス目に、ひらがなで動物や食物の名前)を配り、手書きの絵を示し、当たりの言葉を競っていく。それぞれ賞品をゲットし楽しい多国籍交流の夜となった。

### ★外国人児童生徒への日本語指導研修会

KIFAが市の教育委員会から要請を受け、市内の小中学校に派遣する外国人児童生徒への、日本語指導研修会が、昨年12月3日・5日の2日間、中央公民館で開かれた。受講したのはボランティアと関係者26人。講師は千葉県教育庁企画管理部教育政策課企画室の古橋章光氏、外国人児童生徒受入体制整備研究会・研究員の井上恵子氏。

古橋氏は、県は外国人児童生徒受入体制整備研究会を立ち上げた。目的は私立も含めた各学校と各市各団体のネットワークを作り、支援のノウハウをお互いが活用できるようにすることであると話した。

井上氏からは、いろいろな子供用テキストと、楽しく指導するためのアイデアの数々が紹介された。いつも手探り状態で悩んでいるボランティアにとっては、多くのことを教えられた研修会であった。

### ★日本語ボランティアレベルアップ研修会

中央公民館学習室で2月9日(土)、07年度第2回となる日本語ボランティアレベルアップ研修会が開かれ、品川雅子先生による自動詞・他動詞の教え方など研修した。東葛地区からも7人の参加もあり、21人の出席者は教えるヒントを学んだ。

◆訂正・再掲載 前号「設立20周年記念号」特集のうち、「日本語教室のボランティア活動」22ページの、スタッフ一覧表で不手際があり、メンバーの欠落がありました。再掲載して訂正します。

### 日本語教室ボランティア

青木佳子、安達政美、石川優子、井上直美、宇佐見英男、遠藤尚子、大森佳子、緒方堅吉、海津百合子、坂上久仁子、白木浩子、鷹野悦子、内藤桂子、中橋直子、橋田弘子、藤本克代、藤本貞子、松岡昭男、村岡輝政、村田源吉、吉田憲一



★英語で会話を楽しみたい市民に定着——

### 第五回「英会話サロン」

「外国人と英語で話してみたい、自分の英語力はどのくらい?」——そんな市民たちの人気になっている第5回「KIFA英会話サロン」が1月14日(日)、総合福祉保健センター6階大会議室で開かれた。

今回の外国人スピーカーとトーク・テーマは——

①カーク・ジョンソン(米国)

Kirk Johnson「公正なる貿易の意味するところ(輸出入業務を通じて公正な貿易の意義を考える)」=写真上

②ジェームス・チェネリー(英国) James Chenery「人口増、大気汚染など直面する難題の下、明るい未来をいかに築いていくか(不正なゴミの分別や過剰包装が拡大して環境破壊につながる)」=写真中

③フー・ディンイー(中国) Hu Dingyi「わがふるさと“北京”(北京オリンピックの準備状況)」=写真下

午後1時30分の開始時間に集まった「英語大好き市民」は総計28人(会員17人、非会員11人)、3人の外国人ゲストは5分間のプレゼンテーションのあと、3つに分かれた参加者のテーブルを巡回。それぞれのテーマで英語だけでディスカッション。3人の外国人はハードな内容を分かりやすく話し、参加者も各自の英語力を確かめながらサロンはいい雰囲気のエンジョイタイムを過ごした。アンケートによると、もっと開催頻度を多くして、という要望が多くあったという。

### ◆2008年度総会のお知らせ

鎌ヶ谷市国際交流協会の2008年度総会が5月18日(日)、総合福祉保健センター6階大会議室で開かれます。設立20周年を迎えた協会が、新たな歴史にスタートする年です。会員の皆さんのご出席をお願い致します。

### ◆協会運営・イベント実行ボランティア募集

協会ではさまざまなイベント・事業を行っています。すべてボランティアの人たちで実行されています。広報委員会、交流部会、研修部会の3つのパートがあります。ボランティア参加者を募集しています。活動状況などに関心のある人は、下記事務局までお問い合わせ下さい。

### 編集後記

2007年度最後の「KIFA Plaza」をお届けします。今年度はKIFA設立20周年にあたり、その記念事業を中心に特集しました。一面には遠藤盛章氏の講演会の模様を紹介しました。お茶の間のテレビでは見えない、生々しい戦場の映像を見ながら、遠藤氏は世界で何が起きているか語りました。本当のジャーナリストの仕事を知りました。質疑を含め3時間近くに及ぶ講演の詳細を、紙幅の都合で全部お伝え出来ないのは残念です。もっと多くの市民に聞いてもらいたい講演会でした。(T)